



第1回京都府南部特別支援学級（視覚障害）等担任向け研修会 報告

日 時 令和元年5月30日（木）14：00～17：00
場 所 京都府スーパーサポートセンター 視覚サークルーム
テ ー マ 「見えにくい児童生徒につけたい力～個別の指導計画の立て方を考えよう」
指導助言 山城教育局 指導主事 森 環 氏

今年度も、京都府南部の視覚障害のある児童生徒の教育に携わっておられる先生方を対象に研修会を行いました。当日は、小学校から4名、盲学校から2名、本校から2名の先生が参加してくださいました。

弱視体験では、子どもたちの見え方の疑似体験をしていただきました。その中で青色や赤色のチョークが見づらいことや小さな動きの模倣の難しさ、ひらがなに比べて漢字が読みにくいこと等新しい発見をしていただき、今後の指導として模倣するときには口頭の説明があった方がいい等活発な意見交換ができました。

また、指導助言から、弱視児童生徒について、初めての内容理解には時間がかかるため十分な時間を確保することや、お手本となる児童と席を隣にすることで活動が分かりやすいようにするなど、障害のある児童がない児童と同じように学習できるようにする配慮の大切さについて学ばせていただきました。



【受講者の感想】

視力が低いまま過ごしている児童の大変さを知れてとても良かったです。声の掛け方を変えなければなど自分自身学べたので、是非学んだことを使っていこうと思います。

ずっと「どの程度見えているのか、見えていないのか」が捉えられず苦労していましたので、今回の疑似体験は非常に参考になりました。また各校での実践をお聞きできる貴重な機会となりました。

日々、指導に悩み試みていただいている先生方が実践や今までの気づきを振り返る内容になっていたことで、多くの意見や考えが出されて良かったです。

弱視体験ができて、明日からは今までとは違う適切な声の掛け方ができそうです。